

『できる日本語』のための

アドバイス帳(1)

～「初級」「初中級」をより良く使うために～



『できる日本語 初級』が誕生したのは2011年4月、あれから5年以上の歳月が過ぎ、今では、あちこちで「できる日本語」シリーズを使ってくださるようになりました。本シリーズは、**<学習者も、教師もわくわくする授業>**をめざして、日本語学校の教師が日々の授業で使いながら、作り続けてきました。

「できる日本語」シリーズは、「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけることを目的にした教科書です。日本語によるコミュニケーションの中でも「対話力」に重きをおき、人とつながる力を養います。

(『できる日本語』p. 2)

キーワードは「対話力」「つながる」、だからこそ「わくわく授業」が可能になるのです。最近、「使い方はこれでいいのでしょうか」「もっと学習者の発話を引き出す授業は、どうすればいいのでしょうか」といったご質問が寄せられるようになりました。そこで、今回、「アドバイス帳」を作成し、アクラスのホームページから自由にダウンロードしてお使いいただくことを考えつきました。どうぞさまざまな形でご活用ください。また、ご意見・ご質問がありましたら、どうぞご連絡ください。

できる日本語教材開発プロジェクト リーダー
一般社団法人アクラス日本語教育研究所 代表理事

嶋田 和子

ホームページ : <http://www.acras.jp/>

アドレス : kazushimada@acras.jp

目 次

A 始める前に

- (1) 各課の構成
- (2) 教科書の特徴

B 『できる日本語 初級』使い方に関するアドバイス

C 各パーツの詳しい使い方説明

- (1) 新出語彙の扱い方
- (2) ポイント一覧およびシラバス一覧
- (3) 課の確認テスト

D 副教材

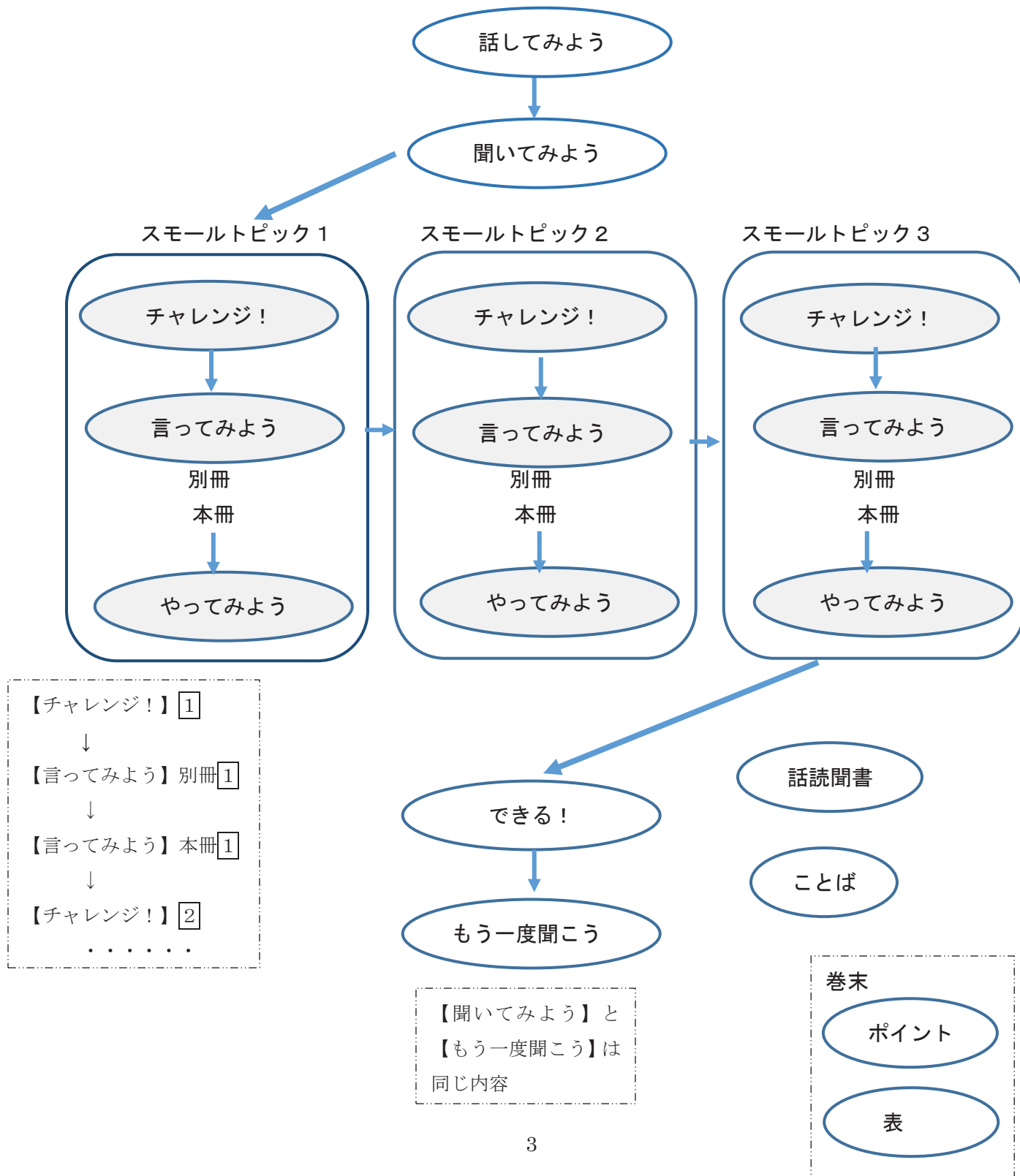
- (1) 『わたしの文法ノート』
- (2) 『わたしのことばノート』
- (3) 『漢字たまご』の使い方と本冊との関係性
- (4) 『たのしい読みもの55』の使い方と本冊との関係性

この順番をしっかりと
理解してください！

A 始める前に

(1) 各課の構成

『できる日本語 初級』各課の構成と授業の流れ」 p. 8より



★『教え方ガイド』を見て、本冊の進め方を確認しよう！

『できる日本語 教え方ガイド&イラストデータCD-ROM』に、本冊の進め方が1課分載っています。また、各課に関しても、5ページずつ説明・注意などがあるので、そちらを参照してください。

＜なぜ充実したマニュアルは作らないのか？＞

最初300ページを超えるマニュアルを作りましたが、「もしマニュアルを作ったら、その通りにやろうとする方が増えることになる。それはやめよう！」ということで、思い切って捨てました。

★『できる日本語』は四技能がバランスよく学べる教科書！

『できる日本語』は、会話の教科書と思っている方がいらっしゃるようですが、4技能がバランスよく、統合的に学べる教科書です。

また、場面・トピックシラバスで出来ていますが、文法・語彙もしっかり身につけることができます。

『できる日本語 初級』と『できる日本語 初中級』の違いは？

このアドバイス帳では、『できる日本語 初級』を中心に書き進めます。そこで、「初中級」の特徴をあげておくことにします。

- ① スモールトピックは、「初級」=3つ、「初中級」=2つです。これは、「初中級」になると、1つのトピックでさまざまな学習項目を学ぶことが可能になるからです。
- ② イラストがスクリプトのすべてを表していない点に注意してください。
→学生を会話の流れにのせる工夫が必要。
- ③ 「初中級」の授業で教えない「その他の項目」があります。6ページに表にしておきます。
※「初中級」には、学習項目として取り上げるほどではありませんが、学習者が初めて目にするときには注意を必要とする項目があります。こうした項目は、授業で簡単な説明を加えてください。

- ④ 敬語に関しては、1課で状況・場面に合わせて「申します／参ります／いらっしやいます」の3つの特別敬語が出できますが、あとは7課で学習します。
- ⑤ 8課で砕けた言い方が出てきた後は、課の中で場面によって「砕けた言い方・デスマス体／敬語を使った言い方」が使い分けられています。
- ⑥ CDの中に、【話読聞書】が「やり取り」になった音声収録されています。課ごとのテーマについて、人と話すときどんなやり取りになるか、学習者にとって参考になります。

『できる日本語 初中級』

課	ページ		
2課	p33	言ってみよう4,5	「大きいのが」
	p40	話読聞書	「～と聞きました」
	p54	5行目	「～たいと思っています」
3課	p47	言ってみよう聴解部分	「これからのこと」の「こと」
4課	p64	6行目	「～がする」においがする
5課	p74	言ってみよう1	「～への行き方」
6課	p82	言ってみよう3,4	～を歩く
	p83	言ってみよう聴解部分	「安いほうにしませんか」
	別冊p21	2 ⑤	「駅から近いです」
	別冊p22	4 ①	「観光地に近いです」
	別冊p22	1 練習2②	「～のが大変です」
	p87	言ってみよう	「大変」「とても」の意味
	p90	下から2行目	「友達から借りて～」
7課	p94	言ってみよう2	頻度の「よく」の位置
	p97	チャレンジ1	だいたい(「約」の意味は初出)→もう一度で
	p98	言ってみよう1	「このくらいいいですか」の「で」
	p102	下から4行目	V+まで
8課	p107	言ってみよう2	そんなに～ない
9課	別冊p31	1 ④	～ときは
	別冊p33	1 練習2⑤	～ましたら/～でしたら、～
	別冊p33	1 練習2⑥	～ますので/ですので、～
	別冊p33	1 練習2	おN、ごN
	p121	チャレンジ1	最初に(初出) →もう一度で
	p125	言ってみよう聴解部分	「このお店のこと」の「こと」
10課	別冊p35	1 練習2③,⑨	「頼む」が初出、言ってみよう1-1では「(人)に～と頼む」が出てきているので、別冊で「(人)に(物)を頼む」と「(人)に～と頼む」の両方を出している
	別冊p40	6 練習2	～によって
11課	p154	言ってみよう2	～ですし/ますし、～
12課	p165	チャレンジ5	～てみたらどう? ST2言ってみようにも
	p169	言ってみよう6	～ことが多いです
	p173	言ってみよう5	節約になる
13課	p178	チャレンジ3	それもそうだね
14課	p196	言ってみよう2	「店長に子どもが生まれました」「～に～が生まれる」
	別冊p54	3	助詞の変化
15課	p208	言ってみよう1, 2	～によると

*「文法ノート」、「ことばノート」、「ガイド&イラストデータ」も参考になさってください。

*上にあげたものはすべて同じ濃さでおさえてくださいというものではありません。

B 『できる日本語 初級』使い方に関するアドバイス

1. 話してみよう

<ねらい・流れ>

・【話してみよう】の2つの役割を把握しよう！

①これから学ぶことをイメージ化すること。

②これまで習った日本語（既に知っている日本語）を使って話すこと。

（自然な形で復習をすることができます）

→『できる日本語教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』に質問例があるので、参考にしてください。

・学習者が「知っている日本語を使って話すことの楽しさ」を感じることが出来る場所です。

・クラスや学習者によって違いますが、目安の所要時間は8分程度です。

<気をつけたいこと>

・語彙や文型などを確認したり、導入したりするのが目的ではありません。

・イラストについて話すだけでなく、イラストをきっかけにして学習者自身の話もできると、さらに効果的に使うことができます。

・学習者・クラスによって使うイラストを選んで使っても結構ですし、また、新たなイラストや写真を持ってくるのも効果的です。

例：4課「私の国・町」ではスカイツリーの写真がありますが、これはスカイツリーが完成する前の写真で、634mありません。ぜひより生き生きとしたものに差し替えて使用してください。また、現場主義ということで、現地に合った写真を使うと、よりいきいきとした学習者の発話を促すことができます。ご当地の有名なタワーを持ってきたり（例：ドバイタワー、台湾 101）、有名な観光スポットの写真を使ったりするとより効果的になります。



7



2. 聞いてみよう

<ねらい・流れ>

- ・ここでは未習の内容が含まれているので、すべてわからなくてもよい！
- ・知っている日本語の知識を使って推測しながら聞くことで、聴解力を伸ばすことができます。
- ・この段階ではよくわからなかった内容が、この課を学んだ後で、もう一度聞くことによって、達成感を感じることができます。

<気をつけたいこと>

- ・「聞いてみよう」の内容を細かく確認したり、言葉を確認したりしないでください。
1度聞いて「何が聞こえたか？」と尋ねるだけで十分です。ただし、学習者の力によっては、2度聞くことや少し分けて聞くこともあります。

3. チャレンジ！

<ねらい・流れ>

・「こんな場面で何て言う？」と学習者にチャレンジするコーナーです。

(状況イラスト(場面)とコマイラストがあります)

・やり方は次の通りです。

- ① 学習者が習ったことや既に知っていることで、「こんなとき何とえばいいんだろう」と考え、知っている言葉を使って言ってみます。

このとき教師は「そのチャレンジの学習項目」に学習者がフォーカスできるように促しておくことが大切です(その後の授業展開が大きく違ってきます)。

- ② それからCDを流します。

- ③ CDを聞いて学習者は、「ああ、そう言えば良かったんだ」と適切な表現を発見したり、「そうか、こんな言い方もあったんだ」と新たな表現に気づいたりすることができます。

(学習者が発見できなくてもOKです。教師は、CDに出てきたフォーカスすべき学習項目を板書します。その際の板書は全文を書くようにしてください。)

→チャレンジの会話は自然にするために、文の構造がしっかり見えないものもありますが、導入板書するときには、全文でしっかり書くようにしてください。初中級の場合、友達言葉や言い差しで終わっているものが増えてきます。その際も、丁寧形で板書するとわかりやすいです。

<気をつけたいこと>

・これは、学習者から「正解」を引き出すものではありません。出なくて当たり前ですので、学習項目にフォーカスが当たるように学習者とやり取りをしておくことが大切です。

・チャレンジ間につながりがあるときは、前の言ってみようが終わって、新しいチャレンジに入る前に、前のチャレンジからするとより効果的です。

例：10課「バスツアー」ST1「集合」のチャレンジ2をするときには、チャレンジ1から続けてやるといいです。

チャレンジ①



チャレンジ②



チャレンジ①

ダニエル：アンナさんはいますか。

パク：アンナさんはいません。まだ来ていません。

ダニエル：そうですか。

チャレンジ②

パク：ちょっと、アンナさんを探してきます。

ダニエル：あ、はい。お願いします。……アンナさんはいましたか。

パク：いいえ、いませんでした。アンナさんに電話しましょうか。

ダニエル：ええ、お願いします。

- ・チャレンジですので、イラストを見て「こんなときなんて言う？」にかける時間は数分程度で、時間をかけすぎないようにしてください。
- ・CDを何度も繰り返して、一文一文を正確に言わせることはしないでください。ここは【チャレンジ！】であることを忘れないように！

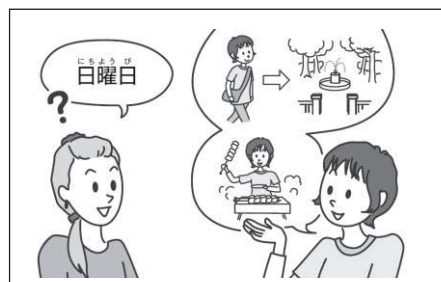
<実践例>

例1：5課「休みの日」ST1【チャレンジ!①】(「動詞の過去形」にフォーカス)

<状況イラスト>



<コマイラスト>



状況イラストは、学習者に「どんな場面・状況で行われている会話なのか」「ST1とST2のつながりなどについて把握してもらうためにあります。ですから、1～3分程度の短いやり取りで十分です。

例1で大切なのは、ホワイトボードにある「月曜日」、時計が「8時45分」を指していることですので、そこを押さえておくことが大切です。

その上で、コマイラストに行くと、学習者は次のように考え始めます。

今は月曜日の朝、授業前に友達に「日曜日のこと」を教室で聞いているから……。
昨日のことは過去形で言うんだけど、日本語で何て言うんだろう？

しかし、まだ動詞の過去形を知らない学習者は「日本語では何と言うのだろう」と思いながら、

学習者A：パクさん、日曜日、何をしますか？

学習者B：公園へ行きます。バーベキューをします。

といったやり取りをすることになります。

そうした発話を引き出した上でCDを聞くと学習者は、

「そうか！日本語では過去のことを聞くときには、『しましたか』と言うのだ」

と発見することができます。

教師は、キーセンテンスをホワイトボードに板書して学習項目の確認をし、次に【言ってみよう】に移ります。

例2：10課「バスツアー」ST1【チャレンジ!】

① 「(まだ～ていません)」にフォーカス

<状況イラスト>



<コマイラスト>



例えば、次のようなやり取りになります。

A : アンナさんはいますか。

B : いいえ、いません。

ここで教師はOKとはせずに、ダニエルさんの吹き出しを指差して以下のように発話します。(すべてを言ってしまわないようにしてください)

教師 : アンナさんはもう？

そうすれば、パクさんの吹き出しを見て学習者は、

C : いいえ、まだです。

D : いいえ、まだ来ません。

といった発話が出てきます。それからCDを聞きます。

ダニエル : アンナさんはいますか。

パク : アンナさんはいません。まだ来ていません。

ダニエル : そうですか。

この例のように、CDを聞くまでにどのように学習者とやり取りをしているか、今日の学習項目にフォーカスが当たるように持っていくことが大切であると言えます。

4. 言ってみよう (別冊)

<ねらい・流れ>

・ここは【チャレンジ!】で明確になった「学習項目」を磨くコーナーです。

・「別冊」は、特に基本的な練習が載せてあります。

<本冊に入れ込むのではなく、「別冊」になっている理由>

1) もっと「別冊」のような練習が必要な学習者もいれば、「別冊」は必要のないような学習者もいます。学習者に合わせて、別冊の練習をカットしたり、教師が練習数を増やしたり柔軟に対応してください。

2) 会話では自然にするために、文が全て見せられないことがあるため、「文をしっかりと見せるために「別冊」としました。

例：初中級 12 課 ST2 ②

学習項目：～やすいです

[本冊では、言い差し文のみ]

[別冊]

疲れます→疲れやすいです

① 太ります②虫歯になります③ストレスがたまります……

[本冊]

A: どうしたの?

B: このごろ、疲れやすくて……。

何かいい方法 (を) 知らない?

A: あ、それなら毎日酸っぱい物を食べると、疲れにくくなるよ。

B: へえ、そうなんだ。

3) 「本冊」に載せてしまうと、学習者は全てやりたくなくなってしまうので、「別冊」としました。

<気をつけたいこと>

・単純練習も必要です。【チャレンジ!】で発見して「そうか、そう言うのだ」と納得して

も、＜部品は磨かなければ、使えません！＞

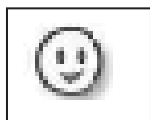
※「別冊」に新出語彙があるケースがあるので注意すること！！

・「別冊」では、フラッシュカードを使ったり、いろいろ工夫したりするといいです。

5. 言ってみよう (本冊)

<ねらい・流れ>

- ・ 談話の形で<お口の練習>をるところです。でも、文型練習であっても、できるだけ意味のあるタスクでやるようにしてください。
- ・ 「ニコニコマーク」と「雲のマーク」の意味をしっかりと理解してください。



自分のことを言うこと！



考えて言うこと！

<気をつけたいこと>

- ・ レベルやクラスの状況に合わせて会話をもっと続けることを促してください (教科書通りである必要はありません！)。
- ・ キューがイラストだけで示されているため、どういう日本語を表しているか分からない場合もあります。そういう場合には、ペア練習を始める前に、キューを一緒に確認することも一つの方法です。
- ・ 本冊のイラストをフル活用してください。

例：7課ST1で、「ここに2人います。何をしていますのでしょうか？」と、教師がフォーカスすべきことにちょっと触れるだけで、その後の学習者の反応も違ってきます。



6. やってみよう

<ねらい・流れ>

- ・【やってみよう】は、各スモールトピックのゴールです。【言ってみよう】で十分練習したので、<もう自分でいろいろ使える！>ということを示すところです。
- ・CDは聴解練習ではありません！このスモールトピックで学習したことだけではなく、それ以前に学習したことも使えるということを確認する役割があります。

例：10課「バスツアー」ST1

ここでの学習項目以外に、【やってみよう】の会話には、「バスの場所がわかりません」「行き方を教えてください」のように、7課ST2の学習項目が使われています。こうした既習の学習項目もフル活用することが重要です。

- ・CDを聞いたあと、タスクの答え合わせをして終わりではなく、聞いた会話の中で、注目してほしいところに注意を促してください。
- ・CDには、学んだSTの「できること」を達成するために、さまざまなやり取りの形があることを知ることができます。
次の例では、CDで7種類の「誘い方」が出ています。ただ「～ませんか?」「～ましょう」などといったやり取りをするのではなく、状況・場面に即したやり取りができるようなCDになっています。

例：6課「一緒に!」ST1

いろいろな形で、友達を誘ったり、誘いを受けたたり断ったりすることができる。
(答えは1つではない!)

例1) パク：山口さん、今日は暑いですね。

山口：そうですね。本当に暑いですね。

パク：ああ、ビールを飲みたいです。飲みに行きませんか。

山口：あっ！いいですね。

「暑さ」を共感した
あとで誘う。

自分の希望をまず述べてから誘う。

例2) ワン: ねえねえ、マリヤムさん、私、カラオケに行きたいです。今晚、一緒に行きませんか。

マリヤム: ああ、すみません。今晚はちょっと……。アルバイトがありませんから。

ワン: そうですか。

相手の好みを聞いてから、情報を出して誘う。

1: ダニエル: ナタポンさんはお祭りが好きですか。

ナタポン: はい。

ダニエル: 今晚、浅草でお祭りがありますよ。一緒に行きませんか。

ナタポン: いいですね。行きましょう。

<気をつけたいこと>

- ・タスクを行う前にCDを聞いて、学習者がタスクのヒントを得ることができます（結果として、これを聞くことで、聴解力もつきます）。
- ・【やってみよう】は、【言ってみよう】でやったことを再現するものではありません。新しい項目だけを使って、【やってみよう】をするのではなく、それまでに学んだ項目や語彙をフル活用してSTごとの「できること」（チャレンジの右上記載）を達成できるよう促してください。
- ・時間がないから【やってみよう】を省略しては意味がありません。これは必ずやってください。

※【「やってみよう！」を省略してもよい】と思うことは、教師自身が<文法脳>から抜けていないということ。

7. できる！ & 話読聞書

【できる！】と【話読聞書】は、どちらを先にやってもかまいません。

「できる！」

<ねらい・流れ>

- ・これは課のゴールですから、省略しては意味がありません。このゴールに向かって、これまで学習してきたのです。
- ・その課が終わってすぐにやるのが基本ですし、そのほうが効果的ですが、場合によっては課をまたいで実施してもかまいません。また、何回かに分けて実施することもあります。
- ・【できる！】にかける時間はさまざまです。
 - ◇課によって異なります。
 - ◇学習者・クラスの状況によっても異なります。

例：1コマ（50分）の場合もあれば、4コマ使う場合もあります。

また、何日かに分けて一日10～20分ずつ使用する場合もあります。

- ・形態・内容もさまざまです。それぞれのクラス・学習者に合わせて最適な【できる！】を実施するようにしてください。

<気をつけたいこと>

- ・そのクラスがスタートする前に、担当者間で各課の【できる！】を確認し、「このクラスでは各課の【できる！】はどんな活動にしようか」と話し合いをすることが大切です。「どこに向かって授業をするか」が明確になると、質の高い授業が可能になります。
 - ゴールの明確化

※地域日本語教室や海外ではクラスを1人で担当する場合がありますが、その場合は、担当教師が全体を把握して、「どんな【できる！】にするかを考えておくといいでしょう。

※海外では必ずしも教科書に記載されている【できる！】が実施できるとは限りません。「現場主義」でいろいろ工夫してください。

- ・ 授業時間だけを使って行おうとせず、グループを作って、授業外の活動につなげるとより効果的な学習ができます。
→ 学習者間の結束も強くなります。
- ・ 成果をまとめたり、発表をしたり……と形態はさまざまです。ただ気をつけるべきこととして、「イベントをすることが目的化しないこと」ということを挙げておきたいと思います。現場では、＜イベントチックにならないように！＞などと言っています。

「話読聞書」 〈ねらい・流れ〉

〈話読聞書というタイトルに注目！〉



(「話・聞」 > 「読・書」)

- ・ 話読聞書は「自分のこと」、「意見」、「経験」など相手に伝えたいことを話すことが目的です。伝えたいことのフォルダーがどんどん頭の中に溜まっていくこととなります。そのことが、学習者が自身をもって日本語で対話・会話することにつながっていきます。
- ・ また、グループやクラスメイトなどに自分の話（バックグラウンド、考え方など）を聞いてもらう楽しさを知ることで、「対話力」アップにつながります。
- ・ やり方の一例をご紹介します。
 - ① クラス全体で何について話すかテーマを共有する質問を投げかけます。学習者から出てきた答えを取り上げて、他の学習者にさらに質問をするように促します。
 - ② 全体で「どんなことをするか」が共有できたら、グループに分かれてテーマについて話をします。そのとき、お互いに知りたいこと、聞きたいことを質問するように促します。
 - ③ クラスメイトから出てきた質問をどんな順番で話したらいいか考えるように促します。場合によってはグループを変えて、再度テーマについて話をつなげて固まりで話すように伝えます。
- ・ 話したことをその場で書いたり、宿題として書いたりするように言います。ただし、毎回、書く必要はありません。
- ・ 話したことから「クラスの〇〇集」を作ったり、ミニスピーチをしたりすることもできます。

<気をつけたいこと>

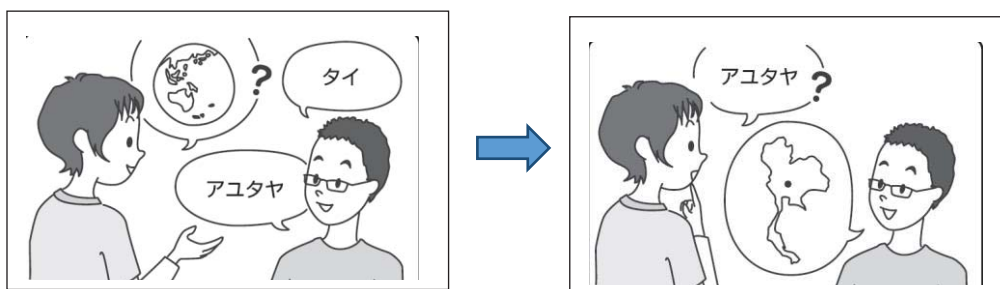
- ・ 学習者のタイプや時間などによってやり方を工夫してください。
- ・ これは読解リソースではなく、「固まりで話すこと」が目的です。
- ・ 教師自身も学習者と同じ目線で自分のことを話したり、書いたりすることも良い方法です。
- ・ 多くの課で作文につなげることが可能であり、それをすることで、学習者は書くことに抵抗がなくなります。しかし、これはあくまで副次的なことであり、毎課やる必要はありません。

C 各パーツの詳しい使い方

(1) 新出語彙の扱い方

チャレンジで「語彙」に関しても発見することに意義があります。
基本的には先に語彙を与えません。

例：4課ST1 チャレンジ①



ここで、学習者は「アユタヤはタイの・・・・・・」と「タイの真ん中」が言えなくて戸惑います。授業では、例えば、[Middle][Centre]といった言葉が飛び出すことがあります。その後すぐにCDを聞くと「アユタヤはタイの真ん中です」という音声が出てくるので、学習者は自分が言いたかった言葉「真ん中」に自ら気づくことができます。これが学習者の自律的な学びにつながります。

新しい言葉は、練習しながら出てきたときに紹介していきます。言葉は、状況・文脈の中で学んでこそ意味があるからです。

81ページの「ことば」ページは、学習者の復習用にまとめてあります。これを課の始めにすべて紹介するのでは負担が大きくなる上、定着も悪くなってしまいます。

<言葉は文脈の中で覚えてこそ身につく！>

(2) ポイント一覧とシラバス一覧

<ポイント一覧> 「初級」 pp. 270-280 「初中級」 pp. 214-227

巻末にポイント一覧がありますが、これは学習者が復習などのために活用するものです。クラススタート時に存在を伝えますが、完全なゼロスタートの場合は、1課終わったあたりで伝えるのも一案です（媒介語が使える場合は、ゼロスタートでも最初に伝えます）。教師にとっても、その課にどのような学習項目があるのか、整理するのに活用できます。

※先にポイント一覧を見せることはしない！

『できる日本語』は<はじめに文型ありき>ではない。学習者の発見・気づきを大切にしている。

<シラバス一覧> 「初級」 pp. 299-302 「初中級」 pp. 242-245

シラバス一覧は教師のためのものであり、全体像をつかむのにとっても便利です。これを見ると、初級で求められる文法項目が網羅されていることがわかります。

(3) 課の確認テスト

クラスの進み具合や学習者の状況によって異なりますが、一般的には**3課進んだところで「1～3課の確認テスト」**のような形で実施することが多いと言えます。文法の正確性を問う問題や運用力を見るものなど問題の種類はいろいろですが、評価を分けて学習者にフィードバックするのもよいでしょう。

もちろん2課ごとにしてもいいですが、毎課実施となると、テストばかりやっている感じを与えることになり、また時間も取られますので、避けたほうがよいと考えます。

確認テストは、たとえば文法に関しては、『わたしの文法ノート』のように、「双葉」→「水やり」→「花」といった変化に富んだものが望ましいと言えます。

パフォーマンステストは、課によってさまざまな評価の仕方があります。

なお、ここでは毎日通う形態の教育機関の場合についてお話ししました。クラスの形態はさまざまなので、確認テストに関しては、ぜひ担当者が学習者の状況に合わせて実施していただきたいと思います。

(1つのエピソードとして、「定着しないから、確認テストをどんどん増やした」という事例がありました。これは授業の展開に問題があり、学習者が使えるようになっていなかったのですが、「学習者に問題あり」という姿勢で、ただテストを増やしていったのが原因だったことが後で判明しました。)

D 副教材

(1) 『わたしの文法ノート』

復習用に作られたものです。

また、基本的には宿題として使用してください。

※宿題で見つかった「間違い」を復習の
ポイントとして扱うこともできます。

『わたしの文法ノート』 10課「バスツアー」

ポイントチェック



「双葉」

単文型を磨く！



「水やり」

文型をミックスして学ぶ！



「花」

アウトプット！

① ポイントチェック

課が終わったときに、その課の文法整理をするために使います。

クラス全体でやっても、個人ベースでもけっこうです。

また、地域日本語教室や独学でやってきた人が、自分の力を知るために、まず「ポイントチェック」で「どのくらいわかっているかどうか」をチェックしてみるという方法もあります。

→『できる日本語』は、しっかり言語的知識が身に付くことも大切にしています。

② 双葉

このワークは、その学習項目が終わったところで宿題に出すといいでしょう。

この課で動詞の活用が出てきますので(10課では「ナイ形」)、その復習も行います。

第10課

ポイントチェック

- 窓[で ・ から]富士山[を ・ が]見えます。
- あの信号[を ・ に]差[に ・ で]曲がってください。
- ここでバス[の ・ を]予約[を ・ が]できます。
- あ、見てください。サル[は ・ が]遊んでいますよ。
- A:ここに荷物を置いてもいいですか。
B:荷物[は ・ が]あそこに置いてください。
- もうすぐ、3時[が ・ に]になります。
- 少し[薬く ・ 薬くに]になりました。
- [にぎやかく ・ にぎやかに]になりました。
- 大きい声で[話さないで ・ 話しないで]ください。
- あそこでパンフレットを[もらって ・ もらう]ことができます。
- まだチケットを[買いませんでした ・ 買っていません]。
- 危ないですから、
[押してください ・ 押さないでください]。
- ここはきれいじゃありませんから、あそこで
[食べてください ・ 食べないでください]。
- A:先生、トイレへ[行ってください ・ 行ってもいいですか]。
B:はい、どうぞ。
- 駅へ行きたいです。行き方を[教えてください ・ 教えてもいいですか]。
- A:あ、バクさん、どこへ行きますか。
B:ナタボンさんを[迎えに行っています ・ 迎えに行きます]。

※文法に関して留意すべきポイントが練習問題としてあげられていますので、
教師が事前に目を通しておくとよいと思います。



なお、「初中級」には「双葉」に加え「四葉」マークもあります。これは単文型で
すが、これまでに出来た他の機能もまとめて学ぶコーナーです。

例『わたしの文法ノート 初中級』5課〔～たら〕

→「初級15課」「初中級3課」「初中級5課」

～たら

①～⑥の「～たら」はA～Cのどれと同じ使い方ですか。

A. 明日、雨が降ったら、サッカーの試合は中止です。
B. 大学を卒業したら、父の会社で働こうと思っています。
C. かばんを開けたら、財布が入っていませんでした。

① もみじ屋へ行ったら、今日は休みでした。 ()
② うちへ帰ったら、すぐ連絡します。 ()
③ 週末、暇だったら、一緒にふじまるランドへ行きませんか。 ()
④ 冬になったら、スキーをしたいです。 ()
⑤ お金があったら、車を買いたいです。 ()
⑥ 起きたら、もう12時でした。 ()

A. 明日、雨が降たら、サッカーの試合は中止です。
B. 大学を卒業したら、父の会社で働こうと思っています。
C. かばんを開けたら、財布が入っていませんでした。

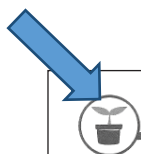
③ 水やり

それぞれの学習項目を十分磨いたということで、ミックスして談話の中で使えるよう
に練習をします。これはその課が終わったところで使用します。

④ 花

その課で学んだことがアウトプットできるようになるためのワークです。
場面に関しては、本冊の場面と若干異なった場면을提示しています。

例： 7課 本冊＝友達の家でパーティー 文法ノート＝公園
10課 本冊＝バスツアー 文法ノート＝図書館



双葉

1. バクさんはまだ来ていません。

- ① A: もう昼ごはんを食べましたか。 B: いいえ、_____。
② A: もう新幹線を予約しましたか。 B: いいえ、_____。
③ A: もうこの本を読みましたか。 B: いいえ、_____。
④ A: もう宿題をしましたか。 B: いいえ、_____。

2. まっすぐ行って、角を右に曲がってください。交番は左にあります。

① A: カメラ屋はどこですか。行き方を教えてください。
B: _____

② A: 駅はどこですか。行き方を教えてください。
B: _____

③ A: 図書館はどこですか。行き方を教えてください。
B: _____

3. ここに荷物を置いてもいいですか。

- ① 隣に()。
② ここでは()。
③ 消しゴムを()。
④ 寒いから、窓を()。
⑤ おなかが痛いから、うちへ()。



吸います 閉めます 開けます 座ります
降ります 貸します 借ります

4. ナイ形

1グループ		2グループ	
書きます	書かない	遊びます	食べます
置きます		飲みます	遅れます
行きます		休みます	捨てます
泳ぎます		入ります	見ます
話します		座ります	
押します		使います	来ます
立ちます		吸います	話します

5. 窓を開けなさい。

- ① あ、そこに荷物を()。
② この部屋に()。
③ 電車の中で携帯電話を()。
④ テストは9時からです。()。
⑤ このチケットは大切ですから、()。

使います
話します
なくします
入ります
置きます
遅れます

6. あそこでチケットを買うことができます。

- ① 図書館で _____。
② コンビニで _____。
③ 郵便局で _____。
④ 携帯電話で _____。

7. 少し寒くなりました。

- ① (暖かいです→)になりましたね。
② 暑が(好きです→)になりました。
③ 掃除をして、部屋が(きれいです→)になりました。
④ もうすぐ(夏です→)になります。暑へ行きたいです。
⑤ 日本語の勉強が(おもしろいです→)になりました。
⑥ 日本語が(上手です→)になりました。

水やり



1.

《旅行の出発前》

- ① A: ナタボンさんがまだ(乗ます→)ね。
B: そうですね。ちょっと(探します→)きます。
② A: 行き方がわかりません。教えてください。
B: まっすぐ(行きます→)、交差点を左に(曲がります→)ください。
A: はい。
③ A: ちょっとタバコを(吸います→)きます。
B: はい、わかりました。
④ A: もう薬を(飲みます→)か。
B: いいえ、まだ(飲みます→)。

《バスの中》

- ⑤ A: 危ないですから、バスの中で(立ちます→)ください。
B: はい。

《動物園で》

- ⑥ 薬を飲みましたから、(元気で→)なりました。
⑦ A: あう、このパンフレットを(もらいます→)もいいですか。
B: どうぞ。
⑧ あっ、鳥が(飛びます→)いますよ。
⑨ A: あ、私も自転車に(乗りたいです)。
B: あそこ(借ります→)ことができますよ。
⑩ あっ、ベンチが(歩きます→)いますよ。
⑪ 天気が(いいです→)なりました。

2.

～てください ～ないでください ～てもいいですか

① _____

② _____

③ _____

④ _____
ゴミは _____

⑤ _____
A: _____
B: あ、すみません。 _____

3.

例 私(は)バクです。

- ① A: もしもし、バクさん、バス停はどこですか。行き方を教えてください。
B: そこ() () 何() 見えますか。
A: 大きい川() 見えます。
B: ジャ、橋() 渡って、2つ目() 交差点() 右() 曲がってください。
A: はい。
② A: マリヤムさん、一緒にお弁当を食べませんか。
B: ええ、あ、自動販売機() お茶() 買ってきます。
A: はい。
C: あう、すみません。ここ() 座ってもいいですか。
A: どうぞ。
③ A: のど() がかわきました。
B: あそこ() ジュースを飲むこと() できますよ。
④ A: あっ、パンダ() えさ() 食べていますよ!

花



としよかん 図書館で



- ① A: _____
B: _____
- ② A: _____
B: _____
- ③ A: _____
B: _____
- ④ A: _____
B: _____

〔2〕『わたしのことばノート』

復習用に作られたものです。「できる日本語」の各課が終わってから、その課の「わたしのことばノート」をします。また、「確認しよう！」は、基本的には宿題として使用してください。

『わたしのことばノート』 10 課 「バスツアー」



「みんなで話そう！」

その課で学習した語彙に注目してみんなで考えるコーナーです。教師が「正解は1つではない！」という意識を持っていないと、ただ答え合わせをして終わりということになりかねません。学習者間で活発な対話が生まれるコーナーとして有効活用してください。



「確認しよう！」

答えは1つなので、自宅学習（宿題）にすることが多いです。タグがあるので学習者の整理にも役立ちます。



※授業の始めに、「つまみ食いの的に習ったところ

から語彙の復習として使用」などという方法もあります。プライベート、クラスなど形態や学習者の状況によってさまざまな使い方ができます。

※語彙の使い方に関して留意すべきポイントが練習問題としてあげられていますので、教師が事前に目を通しておくとよいと思います。



「もっと覚えよう！」

関連した語彙や表現を広げるコーナーです。学習者に合わせてお使いください。

確認しよう!

1. ①~⑧の動詞を()に書きましょう。 **動詞**

① () ② () ③ () ④ ()
⑤ () ⑥ () ⑦ () ⑧ ()

2. ①~④は何ですか。 **地図**

① () ② () ③ () ④ ()

3. どうしましたか。()に書きましょう。 **体の状態**

① () ② () ③ ()

4. □の言葉をグループに分けましょう。 **気をつけて!**

車 鳥 人 雨 子ども

□のおと □のこえ

5. 線でつなぎましょう。 **動詞**

① 部屋に ・ ・ なくします
② 授業に ・ ・ おくれます
③ 財布を ・ ・ はいります
④ 橋を ・ ・ わたります

6. どちらがいいですか。 **気をつけて!**

① 薬を [たべます ・ のみます]。
② [くらいです ・ くらいです] から、そろそろ帰しましょう。
③ さくら動物園へ行きたいですが、行き方が [とても ・ よく] わかりません。

もっと覚えよう!

駅・電車 ①と②は何ですか。

① () ② ()

切符 定期券

1号車 2号車

満員電車 優先席

つり革

あなたは電車の中で何をしますか。

〔3〕『漢字たまご』の使い方と本冊との関係性

『漢字たまご』は、本冊が3課程度進んだところで使用するのが効果的です（学習者・クラスによって何課差をつけてスタートするかは違ってきます）。ただし、『漢字たまご』の進度は本冊の進度を抜かないように気をつけてください。

差をつけることで、語彙としては既習のものとなり、負担感が軽減され、漢字学習に集中することができます。

また、テーマが同じものを使っていることから、関連性を持たせることもできます。例えば、5課「休みの日」の【話読聞書】は、「楽しい1日」です。『漢字たまご』には、「友達にメールで休みに何をしたかについて知らせる」という同じようなタスクがあります。そこで、以前書いた作文を学習者に提示して、「それを下の漢字を使って書いてみよう」などとすることもできます。

『できる日本語 初級』5課【話読聞書】

『漢字たまご 初級』5課
〔やってみよう〕

話読聞書

「楽しい1日」

日曜日、友達と近くの山に登りました。天気がよかったですから、とても気持ちよかったです。山でお弁当を食べました。山からの景色はとてもきれいでした。それから、古いお寺を見に行きました。とてもおもしろかったです。とても楽しい1日でした。また行きたいです。

週末、何をしましたか

誰と行きましたか

どうでしたか

へえ。それから

近く 1日 また

IV あなたの学校は2週間休みでした。

休みの間に、日本人の友達からメールが来ました。

友達は「休みに何をしましたか」と聞きました。

友達に返事を書きましょう。

こんにちは。げんきですか。休みに何をしましたか。私はかぞくとりょうこうに行きました。

漢字をたくさん使って書きましょう。

送信 保存

ヒント：先・毎・週・午・見・食・買・行・休

『漢字たまご』は、

- ・ 書いて読める漢字
- ・ 読めればよい漢字
- ・ 読めなくても、サインとして分かればよい漢字

と3分類して漢字を覚えるという新方式の漢字学習法です。

また「漢字の覚え方を学ぶ」といったやり方も取り入れ、楽しく、効果的に学べる仕掛けになっています。

『漢字たまご』に関しては、アクラス日本語教育研究所のホームページに「使い方ガイド」が載っています。自由にダウンロードできますので、どうぞご活用ください。

<http://www.acras.jp/?p=460>

なお、「初中級」では、各課のトビラにクイズがついている点が「初級」とは異なります。


第7課

だい か

料理を作ろう!

りょうり つく

●どの順番で作りますか。レシピを見て番号を書いてください。




とろとろ♪「親子丼」


【材料 (2人分)】


鶏もも肉	5枚	
たまねぎ	小1個	
卵	4個	
A	砂糖	小さじ1
	みりん	大さじ1
	酒	大さじ1
	しょう油	大さじ2
だし汁	カップ半分	


【作り方】

- 1 鶏肉とたまねぎを切って、卵は2個ボールに入れてまぜておく。
- 2 なべにAの調味料、鶏肉、たまねぎを入れて、弱火で煮る。
半分をフライパンに入れる。
- 3 フライパンを強火にかけ、たまねぎが茶色になったら卵を入れてすぐにふたをして火を消す。
- 4 丼にご飯を入れて、3をのせたら1人分のできあがり。

a ()


b ()


c ()


d ()


(4) 『たのしい読みもの55』の使い方と本冊との関係性

課ごとに対応しているのではなく、目安として「1～5課」ごとに区切っています。これはあくまで目安であり、いろいろなレベルで有効活用できるような内容になっています。

また、次のような3本の柱によって作成されています。

- 1) 接触場面での読みを大切にする
- 2) 「読み」から生まれる多様な対話を大切にする
- 3) 自律的な読み学習につなげる

以下のように、2部仕立てになっています。

- 第1部 日本で暮らす
- 第2部 日本を知る

使い方はさまざまですが、本冊にどう入れ込めばよいかについて、いくつか例を示しておきます。

例1) 『できる日本語 初級』 2課「買い物」
+ 『たのしい読みもの』 第1部2 「お店で見つけたおもしろい物」

例2) 『できる日本語 初級』 4課「私の国・町」
+ 『たのしい読みもの』 第2部1 「これは何でしょう」
2 「何の数でしょう」
4 「日本の名物」

例3) 『できる日本語 初級』 5課「休みの日」
+ 『たのしい読みもの』 第1部4 「週末に行ってみたい店」

例4) 『できる日本語 初級』 6課「一緒に！」
+ 『たのしい読みもの』 第1部3 「遊びに行こう」
5 「野球を見に行こう」
6 「イベントのお知らせ」
7 「ケーキの食べ放題」

- 例5) 『できる日本語 初級』 9課「好きなこと」
+ 『たのしい読みもの』 第1部8 「沖縄へ行きたい」
- 例6) 『できる日本語 初級』 10課「バスツアー」
+ 『たのしい読みもの』 第1部12 「たくさん遊びたい！」
- 例7) 『できる日本語 初中級』 3課「将来の目標」
+ 『たのしい読みもの』 第1部17 「学校のホームページ」

※ 「中級」の事例例8

- 『できる日本語 中級』 5課「緊急事態」タスク4
+ 『たのしい読みもの』 第1部13 「地震が来る前に」
22 「ポストに入っていたお知らせ」



アクラスのホームページにある「できる日本語特設ページ」を活用しよう！

アクラス日本語教育研究所のホームページに「教え方ガイド」が載っていますので、適宜ダウンロードしてお使いください。 <http://www.acras.jp/?p=460>

例：全レベルの「できること一覧」に加え、『漢字たまご』ヒント&ポイント、
『できる日本語中級』ヒント&ポイント、「中級」に関する「学習項目ア
イウエオ順エクセル表」などが掲載されています。
今後実践例なども載せていきたいと思っています。

ご質問がある方は、以下のアドレスにメールをお送りください。

嶋田和子 kazushimada@acras.jp